

女性の社会参画や 国際平和を考える

松江でシンポジウム

ズットナー像に込めた平和への願いを語るイングリッド・ロレマさん



平和や女性の活躍をテーマにしたシンポジウム「八雲立つ出雲から陽が昇る」女性が羽ばたく地方創世のモデルを目指して」が23日、松江市学園南1丁目のくにびきメッセであり、市民ら約500人が講演やパネルディスカッションを通じ

て、女性の社会参画や国際平和について理解を深めた。

小松電機産業（松江市乃木福富町）が主催。オランダ人の女性芸術家イングリッド・ロレマさんが基調講演。自ら制作した女性初のノーベル平和賞受賞者ベル

タ・フォン・ズットナー（1843～1914年）の像を披露し、足跡を紹介した。

「武器を捨てよ！」「空の蛮行」などの作品を通じて平和の大切さを訴えたオーストリアの小説家ズットナーにロレマさんは共感。「芸術はメッセージを伝えるもの」と語り、ズットナー像に込めた平和への願いを訴えた。

江津市在住の作家村尾靖子さんは、まだ赤ん坊だった終戦間近、爆撃でやけどを負ったことを後に母から聞かされた戦争体験についてのエッセーを朗読した。